

【方針2】 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

〔施策の柱1〕 豊かな心の育成

施策名	① 個性を尊重する人間関係づくり					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 33
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
・学校訪問や研修会等で、子ども一人一人の個性や多様性を尊重し、学校の教育活動全体を通して、その子の良さや可能性を引き出す肯定的な関わりや寄り添った指導が図られるよう働きかけた。						
・富士第二小学校に設置された校内教育支援センター（ほっとルーム）が、子どもの自己肯定感を高めて不登校の未然防止の役割を果たすとともに、不登校の子どもの社会的自立へのステップとして機能した。						
・いじめの未然防止に向けた学校体制の強化やいじめの重大化を防ぐ取組において、スクールソーシャルワーカー（SSW*）、スクールカウンセラー（SC*）等との連携を図り、組織的かつ迅速に対応できる体制の構築を一層推進することが求められる。						
◆次年度への展望						
・学校の教育活動全体を通して子どもの思いに寄り添い、子ども理解を深めるとともに、静岡県版SEL*を活用し、子どもの自己理解、他者理解を含む対人関係スキル等の育成を図るよう学校訪問や研修会等で働き掛ける。						
・小学校への校内教育支援センターの増設を進め、子どもの自己肯定感の回復と情緒の安定を図り、一人一人が安心して過ごすことができる居場所のある環境づくりを推進する。						
・生徒指導上の諸問題について、SSW、SC、生徒指導アドバイザー*の研修を充実させ、関係機関と連携し、組織的でより実効性のある支援体制を確立する。						
◆指標 「自分には良いところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 85% 中 80%	小 85% 中 80%	小 85% 中 80%	小 85% 中 85%	小 90% ↑ 中 85%
	実 績	小 79.2% 中 76.1%	小 82.2% 中 75.5%	小 81.8% 中 80.6%	小 85.3% 中 85.9%	

施策名	② 人権感覚の醸成と道徳的实践力の育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 34
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
・研修会や学校訪問を通して、道徳的価値の理解や道徳的な実践意欲と態度が育つ「考え、議論する道徳」の授業の在り方について協議を行い、授業実践を積み重ねた。						
・学級活動や生徒集会等で計画的にスマートフォンやインターネットの利用について生徒が主体的に考え、判断する場を設定し、話し合いを通して情報モラルへの理解を深める取組を行った。						
・「富士市子どもの権利条例*」に基づき、児童生徒の人権への正しい理解を深め、学校生活全体を通して誰もが自分らしく生き、成長できる環境づくりを一層推進することが求められる。						
◆次年度への展望						
・多様な視点から話し合い、自己のより良い生き方を変えることができる「考え、議論する道徳」の授業を推進していく。						
・自他の価値を尊重しようとする態度を育てるため、被害者視点の理解、当事者意識を育む指導、クラス内での対話的な学習の強化など、自他の人権感覚を醸成する人権教育を小学校年代から推進するとともに、教育現場で汎用的に使用できる効果的な情報モラル教育のカリキュラムについて研究を行う。						
・子どもの権利を尊重した学びについて、富士川第一中学校と富士見台小学校を研究校に指定し、子どもの権利が尊重された教科の学習や特別活動について研究を進める。						
◆指標 「人が困っているときは、進んで助けている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 90% 中 90%	小 90% 中 90%	小 92% 中 88%	小 95% 中 92%	小 100% 中 100%
	実 績	小 88.7% 中 80.0%	小 90.9% 中 84.9%	小 93.5% 中 89.6%	小 93.4% 中 91.0%	

〔施策の柱2〕 確かな学力の向上

施策名	① 主体的に学びに向かう力の育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 36
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題） ・「授業づくりの重点」で示す目指す子ども像「学びを創る子・未来を拓く子」の具現化に向け、全小中学校を訪問して授業づくりの要点を示したことで、学習者の視点を重視した研修に取り組む学校が増えてきた。 ・鷹岡小学校が「通常学級に在籍する特別な支援を要する児童への効果的な指導の在り方」について研究成果を報告し、市内教員がユニバーサルデザインの視点による支援の理解を深めることができた。 ・「個別最適な学び」を支える基盤として、ICT の効果的活用、教科の見方・考え方を働かせながら育成すべき力を身に付けるための教材研究、教師の指導力向上について、今後さらに研究を推進する必要がある。						
◆次年度への展望 ・指導主事による学校訪問や研修主任研修会等を通して、資質・能力の育成を目指した授業改善を推進する。 ・主体的に学び合い、自己を調整しながら課題に向かう力を育む教育活動を充実させ、児童生徒の非認知能力を計画的に伸ばす。 ・県指定校の青葉台小学校が取り組む『未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現』の実現に向けた授業づくり等を広め、ICT を効果的に活用し情報活用能力を高める実践を市内小中学校へ推進する。 ・「自立した学び手の育成」に向け、吉原小学校及び吉原第三中学校を研究指定校として研究を進め、研究成果を内へ発信する。						
◆指標 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小80% 中75%	小80% 中80%	小85% 中85%		小90% ↑中85%
	実 績	小77.5% 中78.1%	小79.9% 中77.2%	令和6年度に全国学力・学習状況調査質問項目から外れた。		
◆指標 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	—	—	小88% 中88%	小90% 中90%
	実 績	—	—	小84.0% 中85.9%	小83.4% 中86.7%	

施策名	② 習得・活用・探究による学びの深化					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 37
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
・子どもが「誰と学ぶのか、何を学ぶのか」を自己決定できる場面を意図的に設定した、探究的な学びの実現につながる単元構想が浸透してきた。一方で、探究的な学びを支え、伴走するために必要な教師の支援の在り方について、十分な準備を行う必要がある。 ・全員で同じ課題を解決するのではなく、子どもが「何のために、何を、どのくらい行うのか」を見通して選択できる授業づくりや、複線型授業について教員の理解を深める指導助言を行った。						
◆次年度への展望						
・子どもが自ら課題や学習の進め方を考え、各教科で得た知識や体験を関連付けて活用しながら課題解決に取り組めるよう、情報活用能力や情報モラルのより一層の伸長を目指す。 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、習得・活用・探究という学びの過程の中で深い学びを実現するための ICT の効果的な活用について、学校訪問や研修会等の場で実践例を取り上げながら理解を広める。						
◆指標 「習得・活用・探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 30% 中 45%	小 30% 中 45%	小 40% 中 45%	小 40% 中 45%	小 50% 中 60%
	実 績	小 25.9% 中 37.5%	小 34.6% 中 25.0%	小 34.6% 中 20.0%	小 38.5% 中 20.0%	

〔施策の柱3〕 健やかな体づくり

施策名	① 生活習慣を整えられる子どもの育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 39
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
- 基本的な生活習慣や心身の健康を維持し、向上させるための取組を行った。 - 基本的な生活習慣の確立や心身の健康保持増進のために、養護教諭夏季研修会において、「子どもと一緒に実施できるけがの予防法」について、指導を行った。 - 各種健康診断結果を活用して課題となる事項を見出し、解決に向けて取り組んだ。 - 学校保健委員会等を活用し、家庭や地域、学校医などの関係機関と連携した取組を推進した。 - 子どもたちが栄養バランスのとれた食事の大切さを認識できるよう、食に関する指導を行った。 - 地産地消の取組等を授業に取り込むことで、食への興味・関心を高め、望ましい食習慣を学べるよう、市内 17 小学校において生産者による出前授業を実施した。 「学校生活アレルギーマニュアル」を活用し、アレルギー疾患の子どもへの対応を学校全体で行った。						
◆次年度への展望						
- 基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進について、科学的根拠に基づいた指導を実施することで指導の充実を図る。 - 児童生徒の健康課題について、中学校区、家庭や地域、学校医などの関係機関と連携し、解決に向けて引き続き指導をしていく。						
◆指標 毎日、同じくらいの時刻に寝ていると答えた子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 80% 中 76%	小 84% 中 78%	小 84% 中 78%	小 84% 中 79.5%	小 85% 中 80%
	実 績	小 82.3% 中 76.0%	小 80.4% 中 73.4%	小 82.5% 中 79.0%	小 80.8% 中 81.3%	

施策名	② スポーツを楽しむ子どもの育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 40
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
・「富士市小中学校熱中症予防対策ガイドライン」、「富士市安全指導指針」、「体育（保健体育）科授業における安全管理、安全指導の留意点」等の運用状況を確認し、引き続き、学校生活や運動時における安全対策を講じるよう周知した。						
・体育等の授業において、外部人材やプロスポーツ選手を招聘し、教員の資質向上を図るとともに、専門的な学習の場を設けることで、子どもの運動に対する動機付けを高める事業を積極的に活用した。						
・部活動指導員*の配置について、効果的な配置を検討し、昨年度より1名増員し、10名を任用した。また、部活動指導員の研修会を開催し、指導員の資質・能力の向上を図った。						
◆次年度への展望						
・運動・スポーツに「する」「みる」「支える」「知る」と多様に関わることを促す体育（保健体育）科授業づくりや、保健分野との関連を図った指導等、授業改善を進める。						
・「富士市安全指導指針」や「体育（保健体育）科授業における安全管理・安全指導の留意点」に基づき、体育的行事や授業、プールの使用における安全管理を徹底し、安全に運動できる環境を整備する。						
・小学校1校で水泳授業の民間指導を試行し、その成果と課題を検証した上で、今後の水泳授業における民間委託の方向性を検討する。						
◆指標 「運動やスポーツをすることが好きか」に「好き」「やや好き」と回答した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小95% 中90%	小95% 中90%	小95% 中90%	小95% 中95%	小95% 中95%
	実 績	小88.6% 中80.4%	小89.2% 中80.4%	小90.8% 中82.6%	小88.9% 中82.9%	

施策名	③ 自ら命と体を守るための安全教育の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 41
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
・市内小学校において、警察や市関係課職員、交通指導員等を招いて「交通安全リーダー*と語る会」を実施した。通学路における危険箇所について警察署員と話し合い、危険を回避するための行動を考えるなど、子どもが自分事として取り組む姿が見られた。						
・市内小学校において、警察や防犯協会、民間警備会社等と連携し、体験型の防犯教室の開催や不審者に対する実践的な対応方法を学ぶ場を設定し、自分の命を守るための行動や危険な状況を回避する方法等を学んだ。						
・関係各課と協働して、「危機管理マニュアル」の見直し改訂を行い、富士山噴火時の避難計画や南海トラフ地震臨時情報発令時の対応について学校・地域への周知を図った。						
・防災部局と学校担当者の連絡会を設け、火災や地震、津波等、地域の実態に即した避難確保計画の作成、見直しは進んだが、児童生徒の地域防災訓練への参加には課題がある。						
◆次年度への展望						
・地域防災訓練への参加を促し、地域防災の担い手となる児童生徒を育成する。						
・「危機管理マニュアル」の見直しと教職員への周知を徹底し、保護者や地域との連携体制構築を推進する。						
・関係機関と連携し、外部講師を活用した交通安全教室や防犯教室等を開催し、子どもの発達段階に応じた安全教育を推進する。						
・交通安全協会やトラック協会による自転車乗り方教室、交通安全教室等を開催し、交通ルールやマナーの大切さを体験的、実践的に学ぶ場の設定を推進する。						
◆指標 「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 60% 中 70%	小 100% 中 95%	小 100% 中 95%	小 100% 中 95%	↑小 100% ↑中 100%
	実 績	小 94.0% 中 88.4%	小 94.7% 中 88.5%	小 94.6% 中 88.0%	小 94.6% 中 90.5%	

〔施策の柱4〕 頼もしい教職員の育成

施策名	① 教職員の資質・能力の向上					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 43
	B★	B★	B★	B★		
◆取組実績（成果と課題）						
・「授業づくりの重点」を、年度初めの研修主任者会で説明するとともに、動画を作成し、研修主任が校内で周知しやすいようにした。学校訪問では、全校で共通した理念のもと訪問校の教職員や児童生徒の実態に即した事後指導を行うことができた。						
・市の指定として、岳陽中学校は授業改善、鷹岡小学校は特別支援をテーマとして研究成果を発表した。両校が2年間にわたり取り組んだ成果を、市内の小中学校へ広く共有することができた。						
・教職員の自主的な学びを支えるため、令和6年度から夏季希望研修に3つの新規講座を設け、「授業づくり」に51名、「生徒指導」に28名が参加した。「特別支援」にも58名の申込があったが、津波警報のため中止を余儀なくされた。また、アフター5講座は53回実施し、延べ935名が参加するなど、多くの教職員の研修意欲に応える機会を提供した。						
◆次年度への展望						
・校内研修の充実を図るため、指導主事を積極的に派遣して支援を行う。また、研修主任者会や学校訪問を通して授業づくりの重点を共有し「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現に向けた取組を推進する。						
・学習指導・生徒指導・マネジメントなど、教育課題をテーマとした講座を開催し、教職員の困り感に寄り添いながら資質向上を図る。						
◆指標 「安心して子どもを任せられる学校である」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した保護者の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	80%	95%	100%	100%	100%
	実 績	小96.4% 中93.1%	小96.0% 中94.5%	小96.1% 中93.5%	小96.8% 中93.6%	

施策名	② 学び続ける機会の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 44
	B	B★	B	B		
◆取組実績（成果と課題）						
・年代別や職に応じた県主催の研修会の内容を把握しながら、市主催の研修を充実することができた。						
・教職員が参加したくなる自主研修の場として、アフター5講座の内容の充実を図った。管理職に向けた研修会もトピックで扱い、ニーズに合わせた研修会を実施した。今後もさらなる参加者の増加を目指したい。						
◆次年度への展望						
・学習指導力の全体的な向上を図るため、アフター5講座の授業づくりは、若手育成に焦点を当てた内容にし、若手育成に関わる多くの教職員にも参加を促し、組織としての参加を広げる。						
・教職員の人権意識や特別支援教育等の多様な教育的ニーズへの対応力を高める内容を意図的、計画的に含めた研修を行う。						
◆指標 「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」に「よくしている」と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小65% 中60%	小90% 中75%	—	—	小80% 中75%
	実 績	小85% 中69%	令和5年度に全国学力・学習状況調査質問項目から外れた。			
◆指標 「授業研究や事例研修等、実践的な研修を行っていますか」に「よくしている」と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	小45% 中70%	小70% 中85%	小75% 中85%	小100% 中100%
	実 績	小37% 中68.8%	小61.5% 中81.3%	小53.8% 中53.3%	小65.4% 中73.3%	

施策名	③ 効果的な教育活動のための働き方改革の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 45
	B★	B	B	B★		
◆取組実績（成果と課題）						
・ 勤怠管理システム*により教職員の勤務時間を客観的かつ正確に把握し、時間外勤務の管理を適切に行った。また、そのデータを毎月校長会で共有することで、各校長が自校の状況を市内全体と比較しながら分析できる体制を整えている。 ・ 令和7年度の時間外勤務の平均は月 30.1 時間となり、令和6年度の 32 時間から改善が見られた。令和8年度から実施される「富士市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」が示す月 45 時間以内という基準は満たしているものの、年 360 時間以内という基準についてはわずかに超過した。 ・ 教頭や主幹教諭、教務主任の時間外勤務が他職種より多い状況は、ここ数年続く重要な課題となっている。 ・ 共同学校事務室*による集中処理体制が機能し、これまで教員が担っていた業務の一部を事務職員が担うことで、教員の業務負担軽減に確実に寄与している。						
◆次年度への展望						
・ 校内の教職員の負担軽減を図るために、教頭や主幹教諭、教務主任が多くの業務を引き受けてしまっている現状が見られる。業務を「学校以外が担うべき業務」「教師以外が積極的に参画すべき業務」「教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務」に分類し、各学校で業務の見直しを進める。 ・ 学校における児童生徒の支援において、医療・福祉分野の関係部局や関係機関と積極的に連携し、協働して取り組む。						
◆指標 「業務改善が進められているか」 に「充分進んでいる」「進んでいる」 と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	50%	80%	80%	85%	↑95%
	実 績	75%	72%	76.7%	80.8%	

〔施策の柱5〕 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

施策名	① 探究*する精神と姿勢を育む教育活動の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 47
	B	A	A	B★		
◆取組実績（成果と課題） ・高校3年間の5単元で構成する「究タイム*」では、授業案を会議で共有、修正し探究学習の充実を図った。 ・「市役所プラン*」やビジネス探究科の授業では、市役所、企業や団体の方々の協力のもと、生徒により行政課題に対する解決策などの提案を行うことができた。今後、「探究」で「何を」「どのように」育成できるか各教科で掘り起こしを行うなど、探究学習の更なる深化が必要である。 ・総合探究科1年生の集中研修「研究実践」において桐蔭横浜大学、JICA 横浜、産業能率大学を訪問し、大学生に刺激を受けるとともに、発想力や協働の大切さを学ぶことができた。 ・「探究フェスタ」などのイベントやオープンスクールにおいて、探究学習の成果を発表することができた。 ・アジア圏を研修地とした海外探究研修を行うことができた。（総合探究科：マレーシア、ビジネス探究科：シンガポール、スポーツ探究科：香港）						
◆次年度への展望 ・探究的な力やチームで協働する姿勢を身に付ける課題解決型学習「究タイム」による学びの深化を図る。 ・各教科におけるすべての学習計画の中での探究を意識した主体的・対話的で深い学びを通じ、「やり抜く力」「協働性・コミュニケーション力」など実社会で必要とされる非認知能力の育成に力を入れる。 ・アジア圏を研修地として海外探究研修を実施し、広い視野と国際コミュニケーションへの意識等を醸成する。						
◆指標		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
「探究学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う」と答えた生徒の割合	目 標	87%	88%	95%	95%	95%
	実 績	84.9%	95.2%	93.0%	91.0%	

施策名	② 生徒の夢実現への支援と充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 48	
	A	A	A	B★			
◆取組実績（成果と課題）							
・生徒の自己肯定感を高め、夢の実現に向けた一歩を踏み出す機会として、講演会を開催した。 ・3年生に進路実現に向けた個別指導を実施した。多様化する入試に対応したきめ細かな個別指導が必要不可欠となっている。 ・土曜学習*において、1年生に対しては、東京家政大学院大学、産業能率大学、神奈川工科大学、千葉商科大学等から教員や卒業生を招いて進路啓発や学校生活に関する講演会・個別相談会を開催し、2,3年生に対しては自習室を開放した。 ・1年生対象の職業人講話や2年生対象の大学模擬授業など、学年別の進路行事を実施した。 ・陸上競技部、チアリーダー部が全国大会に、サッカー部がプリンスリーグ東海に出場した。							
◆次年度への展望							
・広く社会で活躍されている方を講師に招きキャリア講演会を実施する。 ・生徒一人ひとりの希望進路の実現に向け、1年生の職業人講話、2年生の大学・学部研究、3年生の進路個別指導など、学年に応じたキャリア教育を行う。 ・1年生の土曜学習において、有識者や卒業生を招いて進路啓発につながる講演や講座を開催する。 ・全学科における英語資格・検定試験やビジネス探究科における全商検定など資格取得を支援する。 ・普段の授業や探究活動、海外探究研修のすべてが進路実現に直結していることを意識させ、1年生から高い目標を持ち、日常的に活動を振り返る習慣を身に付けられるよう指導する。							
◆指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
自分の思い描いていた進路を実現できたと回答した生徒の割合		目 標	70%	90%	95%	95%	↑95%
		実 績	92.4%	96.4%	94.9%	93.7%	

施策名	③ 地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 49
	B	A	A	A		
◆取組実績（成果と課題）						
・学校運営協議会を年3回開催し、学校経営計画書の承認、学校経営報告書の外部評価等を受けた。 ・地域の企業や大学の協力を得て、授業や学校行事を実施した。 ・地域団体や市役所、企業などからの依頼を受けて、吹奏楽部やチアリーダー部、ビジネス部、総合カルチャー部（JRC）など13部活及び有志生徒がイベントやボランティア活動に参加した。 ・未就学児を対象とした「人工芝で遊ぼう」や「学校でEnglish」などの地域交流事業に延べ2,014人の生徒が参加した。 ・「ハヤテベンチャーズ静岡」や「ベルテックス静岡」などのプロスポーツチームとの連携事業を行った。 ・市立高校が独自に取り組む連携事業や交流事業などについて、市民に向けてのPRも必要である。						
◆次年度への展望						
・2年生が地域の魅力と課題を見つけ地域の方と高校生ができることを企画・提案する「市役所プラン」を行う。 ・ビジネス探究科において、高校生の視点ならではの地域資源を活用した新しいビジネスの提案をするほか、サマーインターンシップや課題研究において、市内事業所と連携した学習活動を行う。 ・「放課後子ども教室」や「人工芝で遊ぼう」など、ボランティア生徒が参画し、学校施設を活用した地域交流事業を行う。 ・学校運営協議会の意見や助言を学校運営に反映しながら、地域、行政、企業等との連携を大切にした教育活動を推進する。						
◆指標 地域社会や大学、行政、企業等と連携して実施した授業や学校行事数		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	16 件	20 件	25 件	30 件	↑30 件
	実 績	17 件	25 件	30 件	27 件	